

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立富士見台小学校

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な四則計算の理解はされているが、ミスが多く定着が十分とはいえない。 ・積極的に発言するが、筋道を立てて考えて、説明する力が不十分である。 ・コンパスや三角定規など、教具を扱うことが苦手な児童が多い。 ・小数の乗法、除法の計算や、分数についての計算、また単位量も習得不十分である。 ・課題解決に向け、自分の考えを図など用いて説明できなかったり、友達の考えを聞き、取り入れたりするのが苦手である。 ・文章題などを解決するための読解力が苦手な児童が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決をするために、筋道を立てて考える力、自分の考えを表現する力を伸ばすための指導の工夫が必要である。 ・コース内でも習熟の差が大きく、全体指導だけでなく、個に応じた指導の工夫が必要である。 ・各学年での系統生を意識し、既習内容を意識した授業作りを行う必要がある。 ・問題をよく読み、理解し、必要な情報を整理する手法を身に付けさせる必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>◇<u>数学的な考え方を伸ばすために</u></p> <p>○問題解決型・探究型の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業を行い、めあてを明示して課題をもたせ、自力解決の時間を設定する。 <p>○協働学習の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団解決の検討場面で、解決方法を言葉や式、図などを用いて発表する場面を設定する。考えに対して共通点、相違点について考えられるように指導する。 ・クロームブックやミニホワイトボードを使って思考を共有し、話し合いの活性化を図る。 <p>○指導と評価と支援の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決に必要なヒントを、理解度に応じて準備する。机間指導やノート点検から、児童の理解度にあつたヒントを提示し、視覚的な支援を入れながら、自力解決の支援をする。 ・めあてに即した振り返りを自分の言葉で書かせることで、1時間の学習内容を定着させる。 <p>◇<u>読み解く力を伸ばすために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の中に、認識・思考・表現の活動を取り入れる。 <p>◇<u>表現する力を伸ばすために</u></p> <p>○問題解決型・探究型の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を生かして、自分の考えを言葉や式、絵や図などを用いて表す指導を重視し、友達の考えを説明する学習活動を授業の中に意図的に取り入れる。 ・既習事項とのつながりを重視し、計算の仕方や作図の技能を身に付けさせる。 <p>◇<u>適応・応用する力を伸ばすために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシック・ドリルを活用し、今までの学習の振り返りや、基礎・基本の内容を充実させる。 ・条件過多、条件過小の文章題を意図的に提示し、解決に必要な条件を考えさせる指導を行う。また、児童が葛藤する場面や数値を適度に取り入れ、問題解決力を高める指導を行う。 ・日常生活の中から課題を作成する。 <p>◇<u>個人差に応じた指導をするために</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導で単元や学習内容に応じて習熟度別分割で指導を行う。 ・学力向上専門員を活用した複数体制の指導を行ったり、放課後のステップアップタイムを活用したりして、個人差を考慮した指導を行う。